

読書活動推進へ向けた取組

1 学校の概要

- ① 大沼郡金山町大字川口字蛇沢 2 4 3 4 - 2
- ② 学級数 3 クラス 生徒数 7 0 名 (令和 6 年 5 月 1 日現在)
- ③ 学校図書館の蔵書数 1 8, 9 9 2 冊

2 読書活動推進へ向けたこれまでの取組

① 『図書だより』の発行

『図書だより』は、図書委員が図書館にある本の中からおすすめの本を選び紹介する「おすすめの本」と、教職員が本との関わりについて自由に執筆する「私と読書」から構成されている。前者については、小説のみならず、歴史考証の本や絵本など、様々なジャンルから図書委員それぞれの個性に応じた図書が取り上げられ、生徒たちが面白く読むとともに、新たな読書機会的一端となっているようである。また後者においては、教職員に、これまでの人生における本との関わり方や、好きな本おすすめの本など、自由に書いてもらっている。「こんな本をよく読む」「本からこんな影響を受けた」あるいは「自分はあまり本を読む方ではない…」といった言葉も含めて、身近な大人の本との関わり方について知る、よい機会となっている。



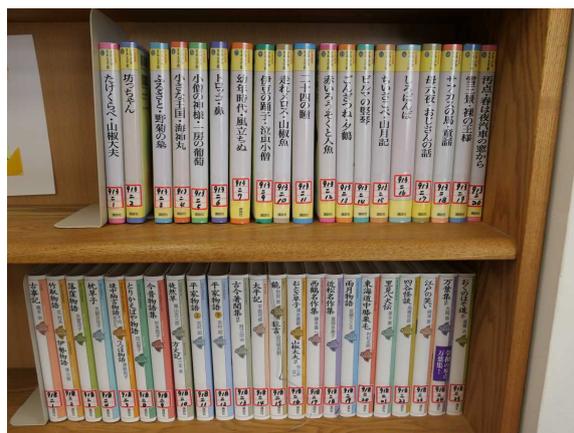
② P O P の作成

図書委員、また図書室を訪れる生徒に声をかけ、図書案内の P O P を作成している。手作りで制作された P O P は他の生徒の興味を引き、「これまで読んだことのない本を手にとることにつながった」との声もあった。また、この本のどこに惹かれたのかということを確認しながら言語化していく活動をとおして、自身の変化・成長の意識化にもつながった。



③ 教科と連携した取り組み

毎年3学期、国語科において「図書館の本を紹介しよう！」という活動を行っている。学校休業中の課題として図書室の本を全員1冊以上借り、休業明けの授業で、全員が本を紹介する発表を行っている。日頃、読書の習慣のない生徒にとって貴重な読書の機会となるとともに、級友の様々な語り口による案内により、読書意欲が喚起されている。



④ 購入図書について

各教科と連携しながら、選定を行っている。情報ネットワーク社会、SDGs、18歳成人、電子マネー等々、生徒を取りまく今日的话题を提供するものや、人文社会学的なもの、また進路選択に関わるキャリア教育的な内容の図書など、生徒たちにとって必要な様々な分野の図書を購入するようにしている。また、教科書以外ではこれまでほとんど本に触れてこなかったという生徒もおり、そういう生徒は本に対する拒否反応もある。そのため、小中学校の読書感想文の課題図書なども積極的に配架し、読書に対する抵抗を極力減らすように努めている。習慣的に図書に親しんでいる生徒はもとより、何となく図書館を訪れた生徒が手に取り、少しでも興味を持ちながら読書に時間を割く機会が増えればよいと考えている。



⑤ 奥会津について

本校は、「総合的な探究の時間」やボランティア活動など、地元奥会津との関わりを大切にしている。そこで、奥会津に暮らすお年寄りに取材した『聞き書き』の本や、奥会津の生活・歴史・方言など様々な文化を紹介する本を配置している。地域に根ざした学校として、地域理解を深め、より深く地域に関わっていききたいと考えている。

